

## 水道法改正に対応する PFAS 分析の最前線

### Web セミナー

このたび、2026 年 4 月施行の水道法改正を見据え、PFAS 分析の実務対応と装置評価の考え方をテーマとした Web セミナーを開催いたします。

【このような方におすすめ】

- ・既存の LC-MS で PFAS 分析に対応されている方
- ・今後の法改正対応に向け、分析条件・運用・装置更新の判断材料を探している方
- ・他施設・他ラボでどのような工夫がされているか知りたい方

2026 年 4 月施行の水道法改正により、PFOS・PFOA の測定は、「測ればよい」から「確実に測定でき、その結果を説明できること」が強く求められる時代に入ります。一方で現場では、「ブランクでもピークが出る」「日によって定量値が安定しない」「装置・消耗品・溶媒のどこが原因かわからない」といった、PFAS 特有の“説明しづらいトラブル”に悩まれている方も多いのではないのでしょうか。

本 Web セミナーでは、法改正のポイント解説に加え、装置メーカーを問わず、多くの PFAS 分析現場で共通して発生する課題を題材に、

- ・システム由来コンタミネーションの切り分け方
- ・偽陽性・定量ばらつきが生じる典型パターン
- ・ppt レベルの定量を安定させるための考え方

など、現場ですぐに使える実践的なヒントを、具体例とともにご紹介します。

あわせて、トリプル四重極および高分解能質量分析計を用いた PFAS 分析データを例に、これらの課題に対して「運用や工夫で改善できるポイント」と「装置設計に依存する部分」を整理し、最近の環境分析向け LC-MS ではそれらがどのように解決されつつあるのかを、実データをもとに解説します。

本セミナーを通じて、「なぜその結果になるのかを説明できる PFAS 分析」を実現するための考え方と判断軸を持ち帰っていただけます。

製品導入検討段階の方はもちろん、まずは現行分析の整理をしたい方も、ぜひお気軽にご参加ください。

#### 開催概要:

開催日時 2026 年 3 月 19 日(木)  
開催方式 オンライン(ON24)  
申し込み期限 2026 年 3 月 12 日(木) 17:00 まで  
参加費用 無料

※同業他社さまおよび代理店さまからの申し込みについてはお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください

※セミナー視聴用の URL は、お申し込み時にご登録いただいたメールアドレスへお送りする予定です。

#### お申し込み:

以下よりアクセスいただき、お申し込みをお願いします。

<https://forms.office.com/r/9AnEPWJxWT>



プログラム(予定):

13:45	ログイン開始
14:00~14:05	オープニング
14:05~14:45	<p><b>現場で役立つ PFAS 分析の最前線</b> サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社</p> <p>PFAS は私たちの身近な環境中に広く存在しており、LC-MS での測定では、システム由来の溶出や試料、溶媒のコンタミネーションにより、偽陽性や定量誤差を生じやすい化合物です。本セッションでは、2026 年 4 月施行の水道法改正のポイント解説に加え、弊社ラボで実際に経験した事例をもとに、トラブルの原因と解決に至った経緯やその対処法、メソッド作成のポイントなど実践的な Tips をご紹介いたします。</p>
14:45~15:05	<p><b>PFAS アプリケーションデータのご紹介</b> サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社</p> <p>PFAS 分析では、感度・バックグラウンドの低減・安定性が結果の信頼性に直結します。本セッションでは、トリプル四重極型および高分解能型質量分析計を用いた PFAS 分析データを例に、装置選定・更新を検討する際の評価視点を整理してご紹介いたします。</p>
15:05~15:15	ブレイク
15:15~15:30	<p><b>PFAS・一般分析を支える最新カラム&amp;消耗品ソリューションのご紹介</b> サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社</p> <p>PFAS はサブ ppt レベルでの定量が求められるため、装置だけでなく、消耗品・前処理・溶媒系の影響が定量値に大きく影響します。本セッションでは、PFAS 分析で見落とされがちな消耗品由来汚染やバックグラウンド上昇の要因を整理し、再測定や原因切り分けに時間を取られないための考え方を事例とともにご紹介いたします。</p>
15:30~15:45	<p><b>水道法多項目分析の効率化を実現する Vanquish Duo デュアル LC システムと Chromeleon ワークフロー</b> サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社</p> <p>水質分析では、項目ごとに装置が専用化され、設置スペース・運用負荷・分析切替の手間が課題となるケースが少なくありません。本セッションでは、複数分析項目を効率的に運用するための考え方とともに、分析切替の自動化・ワークフロー標準化の一例としてデュアル LC 構成とソフトウェア活用事例をご紹介します。</p>
15:45~15:55	クロージング

※プログラムは予告なく変更となる場合があります。

※当日の進行状況により、各演題の開始時間が前後する場合があります。

研究用にも使用できません。診断用には使用いただけません。  
© 2026 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved.  
All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific and its subsidiaries unless otherwise specified.  
実際の価格は、弊社販売代理店までお問い合わせください。  
価格、製品の仕様、外観、記載内容は予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。  
標準販売条件はこちらをご覧ください。thermofisher.com/jp-tc

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社



**ダイオテック東京株式会社**

〒110-0015 東京都台東区東上野6-2-1  
Tel 03(3842)4882 Fax 03(3842)4892  
<https://www.diotec.co.jp/>

Ⓜ